

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1271202762		
法人名	株式会社 みくに		
事業所名	グループホーム みくに 松戸の園		
所在地	〒271-00061 千葉県松戸市栄町西 5-1342 (電話) 047-703-1260		
評価機関名	ユニトレンド 株式会社		
所在地	千葉県柏市若葉町 3-3		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】 (20年 2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 4人, 非常勤 12人, 常勤換算	10.6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70000~80000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (円)	●無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	●有 (300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有: 6ヶ月
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	3	要介護 2	4
要介護 3	8	要介護 4	3
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 80.6 歳	最低 64 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおぞら診療所、斉藤歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム みくに松戸の園」は、江戸川の土手を散歩コースに選べる静かな住宅街のなかに位置する。「自分にしてもらいたいことを、そのように人にもしなさい」という独自の理念を、運営者・管理者・職員全員が同じ気持ちで利用者に寄り添い、3つの介護方針をかかげ、その人らしい暮らしが出来るよう質の高いサービス提供に取り組んでいる。かかりつけ医、家族と話し合いを密に行い、時期に応じた適切な支援の実践に努めている、利用者主体のホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	運営者・管理者・職員は評価の意義を十分に理解し、改善課題に前向きに取り組み、日常のケアに活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者・運営者・職員は、自己評価にあたり話し合いをし、職員の意見を取り込んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	隔月開かれる運営推進会議は、ホームへの理解と評価となり、地域の理解・協力を結びついている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会、運営推進会議、担当職員による介護便りによる信頼関係作りへの努力を重ねながら、より一層の対応を考へ、ホームページを作成し、メールにより意見を言えるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域との関係作りへの取り組みにより連携は良い方向に進んでいるが、行政との連携や介護相談員の訪問等、さらなる努力が望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分にしてもらいたいことは、他の人にもそのようにしなさい。」（聖書）をふまえ、安全と生きがいのある暮らしを支えていく、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は、理念に沿った注意事項をメモにして毎月職員に渡し、ミーティングの際には理念に沿ったケアの取り組みを検討している。管理者と職員は常に理念を意識して介護サービスの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の子ども会の運動会への参加、地区社協主催のふれあい広場への参加、ホーム主催のバザー・夏祭り・クリスマス会等の行事への参加呼びかけ、散歩中の地域住民との交流等顔馴染みとなるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は共に自己評価に取り組み、外部評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。昨年の評価を活かし、地域との接点が増えたことに意義の理解を深めていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開き、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。出席者は、地域包括支援センター職員・自治会会長・民生委員・地域住民・利用者・ご家族・職員等。なお、ご家族の出席者は3年後まで決まっている。	○	グループホーム側からの報告や話し合いのみではなく、時には外部からの視点で参加者の方から議題を提供して頂き意見交換を試みるなど、会議の更なる発展を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流はあるが、それ以外との交流、行き来する機会はない。	○	事業所から積極的な声かけやアプローチに努め、介護相談員などの来訪を願う等、市との連携が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に、事務連絡と共に利用者の暮らしぶりや健康状態等をレターを添えて報告している。また、担当職員作成の暖かい介護便りや行事の写真などを添え、個々にあわせたきめ細かい報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、家族同席の運営推進会議等で意見を頂くほか、ホームページを作成し家族がメールで意見や不満、苦情を表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の離職も無く、利用者本位の介護サービスに取り組み、利用者ひとり一人の担当職員を決め、ベストな介護を提供する体制が出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が最低年一回は外部研修に参加し、ホームの勉強会で研修成果を発表することになっている。職員個々の研修計画は無いが、研修案内を掲示し、職員の要望にあわせて管理者会議で調整している。なお、毎月2回チャペルタイムが有り、教会の牧師様のお話を聴く機会が設けられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外・市外の同業の方を講師に招いて研修会（音楽療法等）を行ったり、他のホームに出向いて園芸の実習をさせて頂くなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの観点からも、市内同業者との積極的な交流・ネットワークづくりに期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人面接・ホーム見学・利用者とのコミュニケーション・体験入所と段階を経て、最終的結論を出して頂くよう、家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『安心と清潔を与える介護』・『生きがいくりの介護』・『できる事はしていただく介護』の3つの介護方針のもと、一緒に過ごしながらか支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに、担当職員が日頃から本人の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努め、個別ケアに取り組んでいる。なお、本人の希望をかなえるべく、個別の外出（外泊）にも対応している。	○	年一回は本人の希望に沿った個別対応が出来るよう配慮している。（例えば、生まれ故郷への旅を希望する利用者もいる。）
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、各ユニット1名のご家族と、ホーム長・管理者・ケアマネージャーとでカンファレンスを開き、現状報告・今後のケアの仕方や方向性について協議し、それを基にケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは基本的には、3・6ヶ月と決めているが、変化が著しい利用者には、優先してカンファレンスを開き、家族と話し合い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりの希望、行きたい所を把握して、個別ケアの意義を理解し取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月二回の訪問診療と訪問歯科を受診している。緊急時には何時でも駆けつけてくれる関係を築き、利用者が適切な医療を受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とのカンファレンスで、必ず終末期について話し合い、家族、本人の意思を確認しているが、文章での取り交わしは行っていない。	○	文章による取り交わしが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。記録等の個人情報の取り扱いの配慮もしている。	○	ボランティアの方との文章による取り交わしが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の三つの方針に基づき、利用者に寄り添って、理解し納得するまで付き合うと言う、利用者本位の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月二回のオリジナルメニューの日には、利用者と共にメニューを考え、一緒に買い物に出かけ調理を行なっている。また、利用者は日々自分の仕事と捉え配膳や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決め一日おきに入浴をしているが、時間帯は利用者の希望に添うよう配慮している。入浴時不穏になりやすい方には、音楽を流したり、浴槽に花を浮かべる等の工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、俳句・ハーモニカ・絵・手芸・書道など趣味や楽しみごとの支援をしている。個別ケアの採り入れによる競輪・映画鑑賞や観劇、年一回の一泊旅行も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日実施して、地域とのコミュニケーションにも心掛け、その日の希望にそって買い物の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件から玄関のみオートロックにしている。事業者は門扉設置との兼ね合いも考慮しながら、出来る限り施錠しないケアに取り組みたいと考えている。		今後の取り組みと工夫に期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署に参加してもらい訓練をしているが、地域の人たちの協力を得られるような働きかけはしていない。	○	運営推進会議のメンバーにも協力を願い、地域の人たちとの協働の機会が得られるよう期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の日々の記録の中で食事量、水分摂取量を把握できるようになっており、一日を通して状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者手作りのカレンダーが飾られ、窓からは隣接の畑が見え季節感を味わうことが出来る、共用の空間はどこも居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人や家族と相談して、利用者の馴染みの家具や使い慣れた好みのものを活かして居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。